No22
2014.8
東邦看護学会
NEWSLETTER

意味を見出す

東邦看護学会理事長　横井 郁子

2013年の東邦看護学会誌の本文ダウンロード数が4600を超えたという報告を受けました。非常に名誉なことであり、改めて会員の皆さまの研究活動に敬意を表するとともに、編集作業に関わってくださった編集委員の皆さまに心より感謝申し上げます。正直、このダウンロード数の多さには驚いています。昨年度のはじめに掲げさせていただいた目標「東邦看護の発信の拠点になる」に一歩ずつ確実に近づいているといってもよいのではないでしょうか。

論文という形にすることは容易なことではありません。とくに人を対象とする私たち看護の研究はほとんどの場合、倫理審査の対象となります。我々の仕事そのものが人を支援するものですから、誰かの不利益になるような研究などないと断言したいところですが、研究課題に集中しすぎて視野狭窄になり他者への配慮が欠けてしまうことがないとは言い切れません。審査結果は時に厳しいこともあります。この厳しさは学会誌への論文投稿時にもあります。したがって、論文が学会誌に掲載されたということは、厳しい山を二つも乗り越えたことを意味します。倫理審査、投稿時の査読は自分が見えていない部分に光を当ててくれるものです。気づかなかったことに対してどう考えるか。少々打ちのめされる（？）審査結果も実は新たな意味を見出すチャンスでもあるのです。論文をダウンロードした方々にはぜひ、筆者たちと新たなディスカッションを繰り広げていただき、更なる看護の発展に貢献していただきたいと切に願います。

日々の実践の振り返りも実は同じだと思っています。私事ですが4月から事例検討を臨床の方々とはじめました。事例を提供された看護師は所属するセクションの特殊性を生かした分析をしています。私は高齢者看護の視点で現象の意味を推測します。このようなやり取りを「短時間でこんなにも深まった。私一人では気づかなかった」と事例提供者は笑顔で語り、参加者は「おもしろい！」と感想を述べてくれました。意見されることで「私のアセスメントが浅かった」と自分を責めるのではなく、看護が広がり深まることに喜びを見出す参加者がとても頼もしく感じました。日々の実践に新たな意味を見出すことは非常に興味深くおもしろいものです。研究でも同じです。予想外の結果は考察には苦慮しますが新たな「なぜ？」が生まれる貴重な瞬間です。だから看護研究も看護実践もやりがいのある仕事なのだと思うのです。

東邦看護学会委員会の紹介

学会誌編集

○村上　好恵	東邦大学看護学部看護学科
山田　　緑	東邦大学看護学部看護学科
橋本　　裕	東邦大学医療センター大森病院
都橋　　薫	東邦大学法人本部看護企画室
高添　寿子	東邦大学看護学部看護学科
新田　汐里	東邦大学看護学部看護学科
遠藤　敏子	東邦大学医療センター大橋病院
門田　昌子	東邦大学医療センター佐倉病院

活動内容

今年度も引き続き、編集委員長を務めさせていただきます。新たなメンバーも加わりましたので、宜しくお願い致します。

3月に発刊された11号には、研究報告4編、実践報告2編が掲載されています。いずれの論文も、わが国の看護の質の向上に寄与するものと思われる貴重なデータとなっています。「看護は実践の学問であり、研究はべつもの」「研究は大変なもの」と考えている方もいるかもしれませんが、よりよい看護を実践するために研究の思考は大切です。「PEPPER」くんたちが登場したとしても、私たち看護職の思考プロセスは真似することはできません。ぜひ、みなさんの豊かな実践内容について研究を通して言語化し、本誌を発信の場としてご活用ください。

研究活動支援

○福田美和子	東邦大学看護学部看護学科
神部　雅子	東邦大学看護キャリア支援センター
宮本　毅治	東邦大学看護学部看護学科
富岡　由美	東邦大学看護学部看護学科

活動内容

東邦看護学会員の研究活動の活性化に向け、研究活動支援委員会がたちあがり5年が経過しました。研究助成にエントリーしてくださる研究計画も毎年数件だされるようになりました。研究助成を受けた研究が学術集会や学会誌で発表されるようになり、定着しつつあると思っております。今後は学術集会賞を受賞された研究がそれぞれの施設で継続研究され学会誌に投稿されることを期待しています。研究助成に向けた研究計画書の締切はこれまでの7月末から9月に変更しました。病棟で研究チームが組織されてから研究計画を洗練し助成に向けたエントリーができるようにしました。みなさまのエントリーをお待ちしています。

広報

○野崎真奈美	東邦大学看護学部看護学科
畑中　晃子	東邦大学医療センター大森病院
山城　久典	東邦大学看護学部看護学科
遠藤　敏子	東邦大学医療センター大橋病院
高橋　初枝	東邦大学医療センター佐倉病院
安岡　砂織	東邦大学看護学部看護学科

活動内容

広報委員会では会員内・外に広く東邦看護学会の“いま”を発信しています。ホームページの維持、管理と年2回のニュースレターを発行しています。ホームページは会員がどこからでもアクセスし、学会に触れていただくことと、会員以外の方々にも東邦看護学会を知っていただくことが目的です。ニュースレターは、会員の皆様の手元に届き、気軽にページをめくることで、学会活動のことを知っていただくことが目的です。皆様と東邦看護学会のつなぎ役になれるよう活動していきます。どうぞお気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

庶務担当

○近藤　麻理	東邦大学看護学部看護学科
出射　明子	東邦大学法人本部看護企画室
寺口　恵子	東邦大学医療センター佐倉病院
大宮　朋子	東邦大学看護学部看護学科
其田貴美枝	東邦大学看護学部看護学科

活動内容

東邦看護学会の事務局には庶務と会計があります。理事会の開催は、年度内の5月、11月、2月の3回で、評議員会は5月に開催されています。このような会議の準備と当日の運営、総会の開催などを広く担っています。昨年度より、学会費を皆さま一人一人での振り込みとさせていただきました。ご入会・ご継続手続きは、順調にできているでしょうか。本年度も引き続き、新しい会員管理システムの検討をおこなう予定です。変更にあたり、今後も皆さまにはご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会計担当

○菊地　京子	東邦大学医療センター大橋病院
鈴木　良美	東邦大学看護学部看護学科
海老原樹恵	東邦大学看護学部看護学科

活動内容

会計は、皆様からの会費を基に、東邦大学看護学会の事業計画に沿って、予算案を作成し、事業に合わせて大切に活用させていただいております。今年度新たな事業計画として、東邦大学キャリア支援センターとの共催講座開催が加わりました。また、昨年度から会費納入方法を自動振り込みに変更しました。多くの方の入会をお待ちしております。

郵便振替：ゆうちょ銀行　蒲田支店
口座記号番号：００１３０－３－６０８４４５
加入者名：東邦看護学会

○＝委員長

“第14回　東邦看護学会学術集会の開催にむけて”

第14回東邦看護学会学術集会　会長　佐藤 ちず子
（東邦大学医療センター大森病院）

第14回東邦看護学会学術集会を、平成26年12月20日（土）に東邦大学看護学部におきまして開催することになりました。今回の学術集会のテーマは『急性期の医療現場で尊厳を護るために』とさせていただきました。開催にあたり、会員の皆さまや関係者の皆さまのご協力とご支援に心から感謝申し上げます。

2025年問題への対応として、日本の医療体制は病院から在宅への方向が更に明確に示され、大きな変換期を迎え病院の機能分化は待ったなしの状況に置かれています。在院日数の短縮は更に進み、時間をかけて患者さんを理解し心を通わせていくことは今以上に困難な状況が生じてきます。

臨床では超高齢化社会への加速とともに、認知症やせん妄を呈した患者さんのケアも多くなっています。看護師たちはどのように対応したらよいか昼夜悩みながら奮闘し、疲弊しながらも解決の糸口を探っています。

転倒転落・ドレーン類の抜去などを未然に防ぐための方法を幾重にも実施し、安全を担保するための一つの方策として抑制や鎮静などの処置を講じなくてはならない現状があります。そこには、看護師たちの“患者さんを人として尊重したい”“患者さんの尊厳を護りたい”という、何よりも患者さんの気持ちを大切にしながらケアをしたいという想いとは異なる現実があります。そして、患者さんの尊厳と同時に看護師自身の尊厳も大きく傷ついているのです。

そこで、認知症ケアの新しい技法として注目を集めている「ユマニチュード」について国立病院機構東京医療センター総合内科医長の本田美和子先生をお迎えし、特別講演をしていただきます。

今後急速に高齢化が進むと見込まれている「都市部」に立地している急性期の医療機関として、患者の尊厳とそこで働く看護師の尊厳を護りながら、いかに安全で安心な医療を提供していくかについて改めて皆さんと一緒に考える機会になれば幸いに存じます。

多くの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

第14回東邦看護学会学術集会

メインテーマ 急性期の医療現場で尊厳を護るために

学術集会会長：佐藤 ちず子（東邦大学医療センター大森病院）

日 時 平成26年12月20日（土） 9：00開場

会 場 東邦大学看護学部

学術集会サロン開設について

12月20日に開催される東邦看護学会学術集会では、研究に関する相談コーナーを開設します。学術集会における相談コーナー開設は、今年で3回目になります。毎年、稲垣書店のご協力もいただき、研究に役立つ書籍販売も同時に行っています。昨年は、どのように研究テーマを絞り込んでいったらよいのか、いくつか疑問に思っていることがあるが、どのように研究テーマに発展させていったらよいのかわからないというご相談をいくつかいただきました。またポスターも含め口頭発表後の研究を誌上発表に発展させるための方法などについてもご相談をいただいたこともあります。研究活動支援委員会の活動の一環である研究助成にエントリーするための研究計画書の書き方や研究費の予算の立て方に関するご案内などもしていきたいと思っています。今年の学術集会でもアスクレピオンで開設しますので、気軽にどうぞお立ち寄りください。

リポジトリの活用現状について

機関リポジトリとは、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステムのことです。

東邦看護学会誌は、平成24年12月より機関リポジトリへの登録を開始し、研究成果がインターネット上のデータベースに掲載されるようになりました。東邦大学では、この機関リポジトリを利用して様々な資料を公開しており、国内外よりアクセスされています。

この機関リポジトリを利用しての本誌の平成25年度（4月から翌3月まで）の総ダウンロード数は4,604件であり、学内で機関リポジトリに登録されている他誌に比べて群を抜いています。利用者は、東邦学内だけではなく、国内他大学、医療関連団体、教育委員会、国内企業、地方公共機関、そして海外からと幅広く、このダウンロード数から考えますと閲覧者数は相当なものだと思います。本誌は、学会員以外の方々への情報発信の場にもなっておりますので、どうぞ日ごろの看護実践の中から沸いてきた疑問を研究という方法を用いて明らかにし、その成果を目の前の患者さんへの看護へ活かすと共に、全国の看護師に向けての発信の場としてご活用ください。

NEWS LETTER
ニュースレター事務局
〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20
TEL 03-3762-9881
FAX 03-3766-3914